



ハイチ地震に関する我々の立場を拒絶する

米帝国主義への屈服

スパルタシスト同盟／米国 (SL/US) の機関紙『労働者前衛 (Workers Vanguard) 』 (WV) は、ハイチ地震に関するいくつかの記事において、「自国」帝国主義支配者に反対するという根本原則を裏切った。こうした記事は、米帝国主義軍隊を援助活動に不可欠であると正当化したのに加え、米帝国主義軍隊の即時撤退を要求するという原則的で正しい立場に対し反論した。この方針は、国際共産主義者同盟 (ICL) の他の支部が発行するいくつかの新聞に掲載され、ICL の事実上の方針となった。我々は、公式に説明し訂正しなければ、革命党として破滅へと至る道をはるかに進むことになるだろう。革命的国際主義の立場はただ、最初から米国と国連の軍隊はすべてハイチから出て行けと要求することだった！

我々は WV 951 号 (1 月 29 日) の記事において、またその後の号でも繰り返し、次のようにはっきりと述べた。

「米軍は、食糧、水、医療やその他の補給物資をハイチの人々に送り届ける輸送を組織する能力、例えばトラックや飛行機や船舶を備えたハイチでの唯一の勢力である。そして米軍は、典型的な欲深い米帝国主義のやり方でそれを実行している。我々は米国と国連によるハイチやあらゆる場所の占領に対して常に反対してきた。そして近い将来、米国と国連はハイチから出て行けと呼びかけることが必要となるかもしれない。しかし我々は、絶望に打ちひしがれたハイチ大衆が物資を手に入れることができるなかで、そうした援助を終わらせるよう呼びかけるつもりはない。」

ICL 国際執行委員会は、我々の革命的綱領へのこうした裏切りを拒絶する。SL/US の綱領は次のように述べている。「我々は、米国のあらゆる軍事介入と米軍基地に対して無条件に反対する。そして米国と国連による攻撃や禁輸措置に直面する植民地と半植民地諸国そして他の弱小で低開発の諸国を防衛する。」

我々は、WV 955 号 (3 月 26 日) の記事の中で、じつに遅ればせながら「米国と国連の軍隊はすべて即刻ハイチから出て行け！」と呼びかけたときでさえ、新植民地ハイチへの米帝国主義占領に反対するという原則を言い抜けし拒絶し続けた。さらにこの記事は次のように述べている。「我々は、『ハイチ地震の惨状：帝国主義、人種差別主義、そして飢餓』 (WV 951 号、1 月 29 日) の記事で明らかにしたように、米軍のハイチ派兵に賛成しなかった。その一方で、あの恐ろしい自然災害の直後に、ハイチ大衆に届いているような援助物資を供給している軍隊に対して即時撤退せよと要求するつもりもなかった。」実際それ以前の記事は米軍派兵に反対であることを明確に述べていないし、また米軍による支配権の奪取のことをその通りだとありのまま呼んですらいないのである。

国際共産主義者同盟 (第四インターナショナル)
国際執行委員会による声明

米国の軍事侵略は、血塗られた米帝国主義を「人道主義」への変容で取り繕おうと意図され、ハイチにおける米国の軍事支配を確保しようと目論まれた。そして、フランスのような帝国主義の対抗者を含め、カリブ海沿岸地域に対して米帝国主義支配を再度実際に示そうと企図されたものである。我々はまた、こうした侵略に反対しないなかで、それがキューバの歪曲された労働者国家（同様にベネズエラのブルジョア民族主義ポピュリストのウゴ・チャベス政権）に及ぼす特別な危険をも無視したのである。そして援助物資の供給が、米国の軍事占領に密接に結び付いた米国政府の立場を受け入れ、従ってこれが「人道主義」の使命だという民主党のオバマ政権に喧伝された神話を売り込む手助けをしたのである。「近い将来、米国と国連はハイチから出て行けと呼びかけることが必要となるかもしれない」（強調を追加）という我々の声明は、結局米国の軍事介入に条件的支持を与えることになった。1914年8月4日、ドイツ社会民主党は、第一次世界大戦の始まりに際し、ドイツ帝国主義支配者への軍事公債に賛成投票した。我々の党のある指導的な同志が述べたように、我々が取った立場とドイツ社会民主党が1914年8月4日に取った立場との唯一の違いは、今回は戦争ではなかったというだけである。

こうして我々は、社会解放と民族解放のための闘いを新植民地国とより先進的な諸国のプロレタリア国家権力に向けた闘争に結び付ける、永久革命というトロツキー理論の革命的国際主義の核心を骨抜きにしまったのである。この革命的国際主義は、北米や国際的なプロレタリアートにたいし、その階級利益がハイチの帝国主義支配に反対する闘いを積極的に擁護し推進すべきであると教えることを意味している。代わりに我々の記事は、それと反対のを行い、米帝国主義の「民主主義」がハイチの人々の救世主であるかのような幻想を助長した。バラク・オバマが第82空挺師団や海兵隊進攻部隊の一部隊を含む帝国主義戦闘部隊を派遣するなかで、我々はほとんどオバマに共鳴したのである。ブッシュの共和党政権がまだ存続していたならば、我々がこれほど容易にこうした立場を取り得ただろうかと疑問に思われる。

中間主義のインターナショナリスト・グループ (IG) は、その最近の記事「ハイチを巡り紆余曲折するスパルタシスト同盟 (SL)」 (『インターナショナリスト』、4月9日) の中で次のように述べている。「帝国主義占領への支持が、帝国主義体制の打倒ではなく、むしろ帝国主義政治を変更しようとするだけの改良主義者にとっては小さな一歩である。その一方で SL/ICL の場合には、こうした占領への支持は受け入れ難いだろう。」実際その通りである。IG は地震をハイチの革命のための機会として扱い、次のように主張した。「この小規模なしかし戦闘的なプロレタリアートは、自身の権力を組織しようとする都市と農村の困窮した大衆の先頭に立つことができる。そして資本主義の国家機構が大いに瓦礫と化し、略奪する少数の警察部隊と化した現在とりわけそうである。」 (『ハイチ：労働者の連帯、賛成！ 帝国主義の占領、反対！』 『インターナショナリスト』、1月20日)

我々は IG の第三世界主義的幻想を単に暴露する代わりに、我々の論争において米帝国主義の軍事介入について熱心に弁明することに集中した。それは IG よりも右の立場であった。第三世界の民族主義にたいするこうした中間主義的弁明者たちは、我々の立場が全く正しくも「社会帝国主義」であると特徴付けた。つまり言葉上では社会主義で実際には帝国主義を支持していると。これは承服しがたい事態である。我々は、自身の方針を厳しく告発することを通じてのみ、IG 創設者たちがプロレタリアート以外の勢力を追い求めて我々の組織から離脱することへと導いた道を進むという選択を避けることができる。IG の場合には、その追い求めている勢力は、旧東ドイツで帝国主義の反革命に妥協し裏切ったスターリニスト官僚の生き残りから、ラテンアメリカの民族主義者や左翼的言動を発する労働組合官僚までに及んでいる。

WV は、IG との論争の文脈の中で、帝国主義占領への支持を弁明するために、革命的指導者レオン・トロツキーの権威を悪用した。トロツキーは、1938年の「思考の方法を学べ」という記事の中で、ブルジョアジーがプラスと付けるところに必ずしもマイナスを付けるべきではないと主張している。彼は、軍事占領軍について言及しているのではなく、帝国主義政府が反植

民地主義の戦士に軍事的**支援**を送るかもしれない場合について言及している。さらにトロツキーはこの記事で、労働者が火事と闘うため動員された軍隊と親しく交わることに言及している。しかし、それは明らかに、米帝国主義軍隊が新植民地国に侵略しつつあったハイチのような状況についてではない。そうした侵略は**レーニン主義者が無条件に原則的に反対する行為**である。

しかしながら革命家はまた、資本主義政府が提供する非軍事的支援への幻想を助長もしない。我々は、地震後の米帝国主義によるハイチ侵略への反応において、2005年に我々のオーストラリア支部が津波後のインドネシアへの帝国主義「支援」介入に対して示した立場を参考にすれば賢明だっただろう。それは特に分離主義のアチェ州への介入の時であった。「オーストラリア帝国主義と全ての帝国主義軍隊及び警察は即刻アチェから出ていけ！」と要求するなかで、「津波による大惨事を巧みに利用するオーストラリアの帝国主義者たち」(190号、2005年秋)と題した『**Australasian Spartacist**』の記事は、帝国主義の支援計画を非難したのである。そして、「たとえ支援計画の一部が少数の抑圧された人々に短期的な利益を提供するかもしれないとしても」、こうした支援は「第三世界大衆の新植民地隷属を強化しようと常に目論まれている」と指摘した。

「可能なことを求める政治」

我々のテンデンシー (Revolutionary Tendency [RT]) は、1960年代初めに、米国の社会主義労働者党 (SWP) 内の左翼反対派として組織された。それ以来我々は、一国内での孤立により、いかなる主観的な革命組織もすぐに破壊されるにちがいないと認識してきた。とりわけ、世界帝国主義の中心地米国において活動するという圧力に晒された組織はそうである。真のプロレタリア国際主義は規律ある国際協力を意味する。それなくして我々は、民族主義の日和見主義という強力な引力にうまく抗することができない。

米帝国主義介入への我々の美化に付随したのが、国際的な民主的中央集権主義の破棄であった。革命党の足場としてのプロパガンダの役割は、**党指導部による議論や動議によって決定された党の方針**を発行することである。WV 951号に「軍隊はハイチから出ていけ」という呼びかけに反対する記事を印刷に回す前に、SL/USの政治局と国際書記局 (IS) (国際執行委員会 (IEC) の常駐行政組織) は、組織された議論や票決を行わないで責任を放棄してしまった。代わりに非公式な協議を通じて我々の方針を定めたのである。しかしながら、一旦その方針がWVに公表されると、その方針が多く他のICL支部の刊行物によって取りあげられた。それは当初意見の相違がほとんどなかったことを示している。

3月18日のIS会議において、米国と国連の軍隊の即時撤退を呼びかける票決がついに行われた。しかしながら、この会議で採択された動議は、WV 955号の記事の基礎となり、「我々が地震の直後に米軍の撤退を呼びかけなかったのは正しかった」ということを再度断言したのである。動議はまた、「2ヶ月前に広まっていた特殊な例外的諸状況はもはや存在しない」と述べる中で、米軍侵略の条件的擁護が自然災害という直接の差し迫った事態では正しいと主張し続けた。さらにIS動議は、米軍が援助物資を届ける手段を備えたハイチでの唯一の勢力であるという定式を批判する一方で、この声明を公に訂正することを要求しなかった。この種の不誠実さは、米国のトロツキズムの創設者、ジェームズ・P・キャノンによって非難された。キャノンは、1954年の党大会でトロツキストのSWPが誤りを認める必要がある状況を述べるなかで、次のように指摘した。「知っての通り、スターリニストは歴史上どんな党よりも変更を行い、しかも急速で徹底した変更を行う。しかし、彼らは『間違えた』とはけっして語らず、『状況が変化した』と常に語るのだ。我々はより正確で誠実であらねばならない。」

メンシェビズムはたびたび「リアリズム」や「便宜主義」の見せかけを装う。我々は、プロレタリアの革命の見解からすればいかなる解決も存在しない状況のなかで、「具体的な解決」を持ち出そうとして屈服したのである。我々の小規模な革命党が突き出さねばならなかったことは、とりわけ「自国」帝国主義支配者に反対することを通じて、ハイチ解放に向けたプロレタリア国際主義の展望であった。この差し迫った状況において、そうした綱領の唯一の具体的な表現は否定的なものだった。つまり、あらゆるハイチ難民を完全な市民権を持って米国に入学させるよう要求し、米国に入学したハイチの人々のいかなる退去にも反対し、とりわけ米国と国連の軍隊の撤退を要求することであった。

我々の記事は米軍駐留を正当化するため現実を歪曲した。我々は、改良主義者が「軍隊ではなく援助」を提供するよう要求することで、帝国主義政府の幻想を広めたと、正しく批判したが、我々自身の対応はそれよりも悪いものだった。我々の記事は、米軍介入はハイチ大衆が「援助」を受けるための唯一「現実的」な方法であると述べ、米軍戦闘部隊の撤退は「餓死による大量死をもたらすであろう」とデマ的に主張したのである。これは、マルクス主義の綱領の立場からではなく、「災害救助」というリベラル的な視点から問題を扱うことであった。マイケル・ハリントンは、米国の民主社会主義者の元指導者で、リンドン・B・ジョンソン大統領の民主党政権の「貧困との戦い」計画の顧問だったが、その彼は「可能なことを求める左翼」という表現で、こうした社会民主主義的世界観の核心を捉えている。

「可能なことを求める政治」は、ソ連崩壊後の反動期における明白な圧力である。そうした反動期は、革命、あるいは、特に米国における戦闘的な階級闘争でさえ、縁遠いように思われる。そして我々の政治の見解にたいする反響の無さが圧倒している。我々の立場と、労働者階級や急進的な若者の意識の間に、そして社会主義者と主張する人々との意識の間に、大きな深淵が横たわっている。以前述べたように、我々の革命的継続を維持するのは非常に難しく、それを破壊するのは極めて容易である。

革命的展望を維持するための闘い

ジェームズ・P・キャンノンは、1950年代初め、当時革命的だった米国社会主義労働者党内のコ克蘭反対派との闘いの中で、次のように主張した。

「革命運動は、最良の条件下においても、過酷な闘いであり、大量の人材を消耗させる。『革命は人間を喰らい尽くす』と、過去に何度も語られてきたのは理由のないことではない。なかでも世界で最も豊かで最も保守的なこの国での革命運動こそ、おそらく最も貪欲であろう。

闘争をやり通し、持ちこたえ、粘り強くあり続け、来る年も来る年も勝利なくして闘い抜くということは、容易なことではない。そして現代のような時代、明確な進歩がない時はまさにそうである。こういう闘争にとって、気骨とともに理論的確信と歴史的展望が必要となる。それに加えて、共通の党内で他者との共同が必要である。」

(「労働組合員と革命家」、1953年5月11日)

革命党から中間主義を経て卑劣な改良主義へのSWPの墮落の例は教訓的である。SWPは反共主義の魔女狩りの時期に、10年以上に亘り停滞と孤立に耐え続けた。コ克蘭派の人々のような高齢化した党カードルは、自身の役割を本質的に米帝国主義の要塞の中での党維持活動に限定されると見るなかで、革命的展望を放棄してしまった。キャンノンとファレル・ドブス下にあるSWP多数派は、このような解党主義に反対してトロツキズムの革命的継承を維持するために闘った。しかし彼ら自身、コ克蘭派を分裂へと導いた醜悪な圧力を免れなかったのである。

4年後の1957年、SWPは、アーカンソー州リトルロックへの連邦軍導入を支持した。そしてその導入の結末は、学校の人種的統合に怒鳴り散らす人種差別主義の暴徒に反対した当地の黒人たちによる自己防衛努力を押し潰したのである。米国軍隊を信頼できる黒人防衛者と飾り立てたことは、1950年代にSWP内に重要な反対を生じさせた。特にリチャード・フレイザーは、米国における黒人解放の道筋として革命的統合主義という綱領を唱えた。我々はそれを我々自身の綱領として取り入れている。しかし誤った方針はけっして修正されなかった。そして米帝国主義軍を人種差別主義テロに対する黒人差別南部での市民権支持の抗議者を守る唯一の「現実的」力であるとする見解が深まっていった。1964年までには、SWPは「軍をベトナムから撤退させ、ミシシッピ州へ派遣せよ！」というひどくばかげた運動スローガンを採用するようになっていた。そして1965年までには、SWPは帝国主義に対する革命的反対の最後の残滓も捨て去り、階級なき平和運動がベトナムの労働者と農民に対する米帝国主義の汚い戦争を阻止することができるという改良主義的嘘を押し進めたのである。

SWPの墮落と闘った革命的テンデンシー(RT)の若き党カードルたちは、我々の組織の創立指導者だった。SWPが辿った軌跡を認識すること、そしてその軌跡を一つの鏡として保ち続けることは、レーニンやトロツキーのボルシェビキへと遡るキャンノンの革命党との継承性を保持する闘いの一部である。このSWPの鏡とは、我々がもし誤りを正さなければ、またハイチ地震に対して我々の革命的国際主義の綱領の明白な裏切りを正さなければ、どのような方向に進みうるかということを示す鏡である。

しかし、こうした訂正する能力は称賛されるような事柄ではほとんどない。それは単に、政治的な訂正の基礎を築くにすぎない。我々は階級線を越えてしまった。そして差し迫って必要なことは、レーニン主義のプロレタリア国際主義の綱領を再度主張し、それを維持するために闘うことである。

2010年4月27日

Statement of the International Executive Committee of the International Communist League (Fourth Internationalist)
Repudiating Our Position on Haiti Earthquake
A Capitulation to U.S. Imperialism
27 April 2010

出版物の申し込み

申し込みから2年間、発行された全ての出版物(不定期刊)及びピラを郵送します。

2年間の料金: 500円; 郵便振替も利用できます 00110-0-49515 SGJ

名前

住所

TEL

スパルタリスト・日本グループ 〒115-0091 東京都北区赤羽郵便局私書箱49号
03-3963-8007 Email: sgj_icl@yahoo.co.jp

国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）

国際センター - : Box 7429 GPO, New York, NY 10116, USA ; インターネット : www.icl-fi.org

連絡先	住所	連絡先	住所
Spartacist League of Australia オーストラリア	Spartacist ANZ Publishing Co. GPO Box 3473 Sydney, NSW 2001 Australia	Lega trotskista d'Italia イタリア	Walter Fidacaro C.P. 1591, 20101 Milano, Italy
Spartacist League/Britain イギリス	Spartacist Publications PO Box 42886 London N19 5WY Britain	スパルタシスト・ 日本グループ	スパルタシスト 115-0091 東京都北区 赤羽郵便局私書箱49号
Trotskyist League of Canada/ Ligue trotskyste du Canada カナダ	Spartacist Canada Publishing Association Box 6867, Station A Toronto, Ontario, M5W 1X6, Canada	Grupo Espartaquista de Mexico メキシコ	Roman Burgos Apdo. Postal 302 Admon. Postal 13 CP 03501 Mexico D.F., Mexico
Spartakist-Arbeiterpartei Deutschlands ドイツ	SpAD, c/o Verlag Avantgarde Postfach 2 35 55 10127 Berlin, Germany	Spartakusowska Grupa Polski ポーランド	Jan Jędrzejewski Skr. 148 02-588 Warszawa 48, Poland
Ligue trotskyste de France フランス	Le Bolchevik, BP 135-10 75463 Paris Cedex 10, France	Spartacist/South Africa 南アフリカ	Spartacist, PostNet Suite 248 Private Bag X2226 Johannesburg 2000 South Africa
Trotskyist Group of Greece ギリシア	BOX 8274, Athens 10010, Greece	Spartacist League/U.S. アメリカ	Spartacist League Box 1377 GPO New York, NY 10116, USA
Spartacist Group Ireland アイルランド	PO Box 2944, Dublin 6 Ireland		